



THE Y'S MEN'S CLUB OF KANAZAWA-SAIGAWA

CHARTERED IN JUNE 12, 1993

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF
Y'S MEN'S CLUBS
THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

KANAZAWA YMCA : 44-1, SATOMICHO, KANAZAWA, JAPAN 920-0998

<http://sophiruka.sakura.ne.jp/saigaways/>

国際会長主題 「ともに、光の中を歩もう」 “Let Us Walk in the Light - Together”
アジア太平洋地域会長主題 「ワイズ運動を尊重しよう」 “Respect Y's Movement”
西日本区理事主題 「2022年に向けて“心身の健康づくりから、クラブの健康づくりへ”
“Healthy mind & healthy body make healthy club”

中部部長主題 「愛し合い、助け合い、心はいつも青春」

金沢川クラブ会長主題 「ワイズの輪を広げよう！」

会長：北 肇夫，副会長・会計：澤瀬 諭，書記・直前会長：平口哲夫

今月の聖句：言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。
暗闇は光を理解しなかった。

新共同訳聖書 ヨハネによる福音書 1章 4節～6節

2018年2月強調月間

TOF CS FF STEP for All

各クラブ独自で行っている素晴らしいCS事業をワイズ全体に発信し、自慢しましょう。互いに知り合う事でワイズ活動の活発化を促進しましょう。各種献金は期限までをお願いします。

吉田由美地域奉仕・環境事業主任（大阪なかのしまクラブ）

☆☆☆2月第一例会案内☆☆☆

2月11日(日・祝)～12日(月・振休)に新春特別例会として深谷温泉・元湯石屋で開催予定でしたが、大雪のため予定を下記のごとく変更。

日時：2月15日(木)19:00～21:00

会場：ホテル金沢(金沢市堀川新町1-1)

会費：3,500円(食費を含む)

準備：竹中ワイズ

プログラム

司会：澤瀬ワイズ

開会・点鐘：北会長

ワイズソング：一同

今月の聖句：司会者

ゲスト紹介：司会者

今月のハッピーバースデー：北会長

三谷信三(25日)・三谷道子(14日)

食前の感謝：平口ワイズ

—— 会食 ——

卓話「ギリシャ・南イタリア旅行体験談」

瀧平 才治 氏(元クラブ会員)

事業委員会報告：各委員長

閉会点鐘：北会長

☆☆☆1月例会報告☆☆☆

【第一例会】1月25日(木)19:00～21:00、ホテル金沢、卓話「子供たちのやる気スイッチを入れる」、多賀千之氏(多賀クリニック院長)、参加者/北・北ネット・澤瀬・澤瀬ネット・竹中・平口。【第二例会】1月11日(木)19:00～21:00、竹中チャペルで開催の予定だったが大雪のため、Eメールでのやり取りで済ませることとした。

名古屋クラブ70周年記念例会 3月4日13:00～16:30、アリス愛知。3月第一例会 3月8日(木)19:00～21:00、ホテル金沢、卓話「睡眠～ぐっすり眠って、すっきり目覚めのために～」中島素子氏(金沢医大看護学部教授)。

今月の聖句について ヨハネによる福音書が書かれた紀元1世紀末頃は、キリスト教がユダヤ教から異端とみなされ、迫害されるようになっていた。この聖句で「光」というのはキリスト教、「闇」というのはキリスト教徒を迫害する、当時のユダヤ社会を意味している。差別や抑圧を受けても、「光の子」として生き生きと生きることができた、その理由を福音書は説き明かしている。(平口)

2月の当番 準備/竹中、司会/澤瀬

《金沢YMCAのホームページ》

<http://sophiruka.sakura.ne.jp/kanazawaymca/>

*例会に使用済み切手、アル缶、ワス用布製品をご持参下さい。

当クラブ	1月出席者	1月出席率(正会員)	B Fポイント	ニコニコタイム
正会員 4名	正会員 4名	4÷4×100	前月繰越切手 3,675g	前月累計 15,590円
広義会員 0名	功労会員 0名		1月分切手 0g	1月 4,200円
功労会員 1名	メネット 2名	メーキャップ 0名	今年度累計	
	ビジター 0名		切手 3,675g	
	ゲスト 1名		現金 0円	
合計 5名	7名	100%		今期累計 19,790円

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”

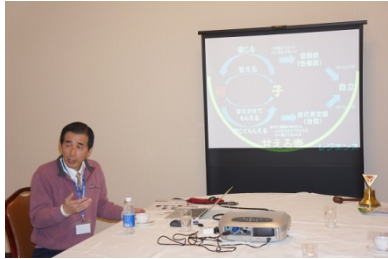
◆ 1月第一例会報告 ◆

平口 哲夫

1月25日(木)19:00からホテル金沢で開催の1月第一例会は、多賀クリニック院長の多賀千之(たが・かずゆき)先生の卓話「子供たちのやる気スイッチを入れる」を拝聴。参加者は子育てではなく孫育て世代ばかりだったが、家族関係のありかたも含めて示唆に富むお話を、楽しく、くつろいだ雰囲気の中で伺った。

子育てを「木の苗」を育てるイメージで考えた場合、①「土」:「甘える」、②「水」:「話を聞く」、③「肥料」:「ありがとう」、④「太陽」:「夢を語る」の対応関係があり、このうち①に近いほど母親、④に近いほど父親の役割が大きい。

生まれたばかりの赤ちゃんは、すべてのことを泣いて伝えて両親や家族にいろいろしてもらおう。この「してもらえる」ことの繰り返しから信頼感と自己肯定感が生まれ、自立に向かっていく。自立は、“甘える壺”が十分に満たされて、心の安定感が確保されれば、自然発生的に始まる。ただし、“甘えさせてあげる”のはその子のために時間を使うことであって、物質的に“甘やかす”ことではない。



人はアドバイスしてくれる人より、話を聞いてくれる人を信頼する。アドバイスは二の次にして、まずは、しっかり相手を見て、うなずきながら傾聴することが大切。

人から「ありがとう」と言われると、“自己肯定感”が得られ、他人を肯定して仲良くする基本にもなる。日常生活の中で「ありがとう」をたくさん言うようにしましょう。

大人自身がワクワクするような夢を持ち、それを子供たちに語りかければ、子供たちも夢を持つようになり、夢に向かって歩き始める。また、自分たちの経験を生そのまま子供たちに話してあげれば、子供たちは自分にとって必要なところだけを抜き取っていく。

私自身、反省させられる内容のお話ただけに、子育て中の娘に配布資料を送ってあげることにした。上掲の写真は、謝礼後に握手を交わす北会長と多賀先生を撮ったもの。下掲の写真は、閉会点鐘後に撮ったもの。



◆ ロシア・バルト海クルーズ'体験記(9) ◆

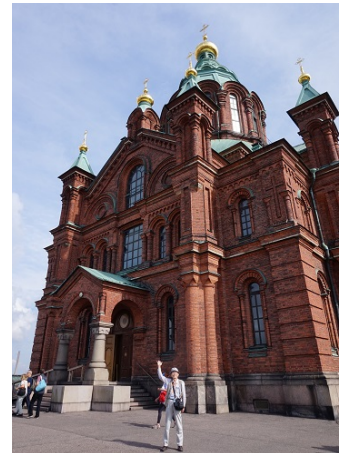
平口 哲夫

2015年8月26日 23:30(現地時間)ロシアのペテルブルクを出港。翌



27日、フィンランドのヘルシンキに向かうMSCオーケストラのデッキ13のプール脇舞台でコックさんたちと記念撮影。

同日 12:00 ヘルシンキに到着、2時間ほど市内観光。右の写真はウスペンスキー寺院(大聖堂)の前で撮ったもの。ロシア帝国時代の1862~1868にロシア正教会の大聖堂として建設されましたが、現在はフィンランド正教会のものとして位置づけられています。中には入らず、外観だけを見ました。



次に訪ねたシベリウス公園は、フィンランドを代表する作曲家シベリウス(1865-1957)を記念して造られたもの。パイプオルガンのようなモニュメント(下掲写真の左側)とシベリウスの头像(右側)が特徴的。ワイスソング「いざ立て」の曲はシベリウス作曲の交響曲「フィンランディア」の一部、『讚美歌21』532番、『讚美歌I』298番の曲でもありますから、今回、訪れることができてよかったと思います。



巨大な岩をくりぬいて造ったテンペリアウキオ教会(ルーテル派、1969年完成)も印象的。上部側面にガラスが嵌め込まれ、自然光が取り入れられています。岩盤がむき出しになっている壁は音響効果に優れているので、コンサートホールとしても利用。設置されているパイプオルガンの演奏を聴いてみたい。



(つづく)